平成29年度協働事業報告会（28年度事業実施分）
総評（コメント）（協働事業選考委員会志村委員長）

現在、市民活動や協働に関わる条例制定に向けて、検討しているが、皆さんの取組み等が模範であり、これから何を考えていかないと協働に進まないのか等を考えさせられるよい報告会であったと感じている。

総括して眺めてみると、やはり市民協働は大事だと思わせることが沢山あった。一つは“市が単独でやって出来ただろうか”、“市民が好きに提案して出来ただろうか”と考えたときに、市民と行政が一緒にやった時に出来てるなというところが沢山見えた。

史跡協働管理事業は、市民目線だから出来る管理で、四季の花の話が出てきたりと、市民感覚は行政が決めて調査をした結果を淡々と書いたものよりもはるかに魅力的である。

歴史遺産のデジタルアーカイブ事業や観光案内図作成事業は、会員のみなさんが、市民といってもただの市民ではなく、専門的な技術や知識を持った市民の皆さんであり、もはやコンサルタント事業であると感じ、一つの事業として成立しそうなところまでいっているというのが鎌倉の強みだと思う。専門的な目線のある市民が活躍する機会が協働だからこそ広がっていく気がする。

生涯学習センターロビーの活用検討については、今あるものをどうするかを見直すというところに面白みを感じた。非常に丁寧なリサーチをしながらニーズをかぎとり、無理のない提案をしていくという手の届きそうな答えをきちんと出すという報告は、特徴があったと思う。

メニューの翻訳支援事業は、これから大切なところであるし、我々市民が外国人に対する備えでもあり、色々な文化が見られる機会になる。また、今後メニューの話は広がりを持っているので、鎌倉だけではなく県内や国内にも広げていく必要がある。そういう意味では色々な人たちの見本になるような考え方や、方向性が大事だなと思わせてくださる大切なメッセージが沢山あった発表だったと思う。

報告会では、発表者の方しかいないが、残り１６万何千人の市民の皆さんに聞いてもらったら「これは市民で考えなくてはいけない」という気持ちになることが沢山あったと思う。是非今日の成果は広く市民に広げるようにしましょう。協働事業で取り組む意義ややりがいなど、素敵なまちになっていくために大切なことだということを広げていく必要がある。

今年度の事業の成果で終わらすのではなく、これから将来鎌倉をよくしていくための一つの方向論として市民が考えるべき大事なことを有効に活かしていかなければと考えている。

これからもこういう気持ちを大事にしながら皆でこのまちを考えていく機会を作れればと思っている。